

早稲田 庭園 美術館めぐり

風情溢れる芭蕉や漱石の跡地 庭園を季節を感じながら歩く



おすすめコース 徒歩移動時間 1時間10分
見学時間を合わせて約3時間ほどで回れます。



早稲田庭園ツアー 詳細は58ページ

おすすめコース 都電ルート



おすすめコース メトロルート



早稲田のまちの 庭園 美術館のご案内

早稲田のまちは都心にはめずらしく庭園や美術館などの多い地域です。その中のいくつかの見どころをご案内します。



大隈庭園

江戸時代、高松藩松平氏の別邸だった。1884年に大隈宣信が屋敷を構え、もともとあった庭を和洋折衷に改造した。早稲田に田んぼを復活させようと学生NPO「農業塾」が庭園内に田んぼをつくって稲作をしている。



関口芭蕉庵



かつて松尾芭蕉が神田上水の改修工事に携わった際に住んでいた住居跡。その後焼失し、現在のものは第2次大戦後の建築である。巻簷とした園内には、「古池や蛙飛び込む水の音を」と等の句碑があちこちに。

戸山公園



当地一帯は、江戸時代には尾張藩徳川家の下屋敷で、回遊式庭園「戸山山荘」と称された。敷地内の箱根山は標高44mで山手線内では一番高い地点。桜の名所で、花見の時期には早大生たちが宴を繰り広げる。

椿山荘

ここは南北朝の頃から椿が群生していた。1878年明治の元勲山縣有朋が私財を投じて購入し、椿山荘と命名した。敷地2万坪の庭園内には室町時代の三重塔なども現存し、夏にはホテルも観賞できる。神田川沿いの冠木門から数歩可。



野間記念館

講談社創業90周年事業の一環として2000年4月に設立された。講談社の創業者・野間清治が、収集した美術品「野間コレクション」、出版文化資料、講談社とゆかりの深い画家、村上豊画伯の「村上豊作品群」などがある。



新江戸川公園



幕末に細川家の下屋敷になり、明治時代には細川家の本邸となった。江戸時代の大名屋敷の回遊式泉水庭園の雰囲気も現在でも楽しめる。目の前の神田川沿いは桜並木が続き、大勢の花見客が訪れる。

永青文庫



昭和25年、細川家に伝来する文化財の散逸を防ぐ目的で財団法人として設立された。その名称は細川家の菩提寺である京都建仁寺塔頭永源庵の「永」と初代肥後熊本藩主細川幽奈の居城青龍寺城の「青」の二字をとった。

甘泉園公園

徳川時代の御三卿のひとつ清水家の下屋敷がおかれたところ。甘泉園の名は、園内に清冽な湧き水があり茶に適したことに由来する。春のツツジ、秋の紅葉が水面に写り、見事な景観を創り出している。



演劇博物館

坪内逍遙の発案で、エリザベス朝時代の「フォーチュン座」を模して今井兼次らにより設計された。縮絵4万枚、舞台写真20万枚、その他図書・演劇資料5万点など数十万点にもおよぶ膨大なコレクションがある。

